

# 「市政報告会」11日間にわたり開催

## 阿蘇市誕生から3年半、各会場で意見交換盛んに行われる



10月に開催しました「市政報告会」の説明内容や参加者からのご意見の一部を紹介します。

### はじめに

平成18年度から開催しています「市政報告会」も今年で3回目となりました。10月17日から10月31日まで阿蘇市内11小学校区で開催し、昨年同様約600人の方々にご参加いただきました。

この市政報告会は、市長をはじめ行政が直接各地域に出かけ、阿蘇市誕生から3年半が経過した中で、子育て支援や高齢者支援、また各種事業等のこれまでの取り組みや財政状況を市民の皆さまに説明し、市民の皆さまが今後のまちづくりを求め、何を期待しているか、生の意見を聴くものです。

今回は、市長、教育長自らパワーポイントを使った説明を行い、参加した方々に大変好評でした。また会場で皆さま方から多くのご意見をいただきました。これらのご意見につきましては、今後の市政に大いに反映させ、さらに開かれた行政の推進に努力してまいります。



▲市政報告会の様子

### ■市政説明の内容

報告会では、国の状況、各部の取り組み（主な事業のみ）、市の財政状況等について説明を行いました。各部の取り組みの説明項目は次のとおりです。

※詳細は阿蘇市ホームページに掲載しています。当日の資料が必要な場合は総務課秘書政策室 ☎2231111 までご連絡ください。

#### 【総務部】

行政改革、ASO環境共生基金、阿蘇駅周辺整備事業、企業誘致、内牧中心市街地まちなみ整備事業、防災行政無線整備事業

#### 【市民部】

乳幼児・児童医療費助成事業、保育所運営事業、母子保健事業、地域包括支援センター事業、健康はつらつ講座事業、バイオマスエネルギー地域システム化実験事業、消費生活相談事業、阿蘇中央病院事業

#### 【経済部】

基幹作目の振興、農業用生産施設・機械導入への支援、ブルーベリーの産地化推進、商店街活性化事業、インフォメーションコーナー導入事業

#### 【土木部】

幹線道路整備事業  
公営住宅整備事業

#### 【教育部】

学校施設整備事業  
学校教育の充実  
社会教育・社会体育の推進

### ■各会場での質問と回答

（11の会場で出た意見・質問の一部を紹介します）

【Q】地震などで家が崩壊したときの波野地区の避難場所はどこになるのか。

また、被災者の中に高齢者がいる場合も考えているか。

【A】阿蘇市では、災害時の避難場所として基本的に各校区の小中学校を想定しているが、波野地区に関しては、波野保健センターも避難場所の一つとしている。また歩行困難な高齢者など要支援者の方々

報告会での説明内容はすべて市のホームページに掲載しています。

については、個人情報やプライバシーの保護といった課題があるが、「要支援者マップ」づくりが必要と思われる。「要支援者マップ」を作成し、警察、消防といった関係機関と情報を共有することにより、要支援者の方々の優先的な救助や保護ができるものと考えている。(総務部長)

【Q】合併特例債は、総額118億円で、その運用は「新しい阿蘇市の東の玄関と西の玄関に使う」と聞いている。現時点でどう使われているのか。

【A】合併特例債は、平成26年までに118億円使用することが認められおり、平成20年度末までに、学校施設整備事業や幹線道路整備事業などに約20億円使う予定。しかし、特例債といえど基本的には借金であり事業に要する経費のうち、一定割合は市の一般財源を充当しなければならぬ。将来的に多額の負担を強いることがないよう、効果的な運用を心掛ける。(総務部長)

【Q】小里団地等について建設が進められているが、入居基準はどうなっているか。

【A】現在建設中の団地は、老朽住宅の建て替えを目的として建設されており、既に市営住宅に入居していることが、第一の入居基準になる。現小里団地については、基本的に竹林・新橋・小里・番出団地にお住まいの方が住み替える団地になる。(土木部長)



▲小里団地建設状況

【Q】榎木野小学校跡地の温泉を今後どのように活用する方向で考えているのか。中央病院を閉鎖し、温泉付きの阿蘇東部病院を建てたらどうか。

【A】整備となると、温泉施設で5千万円、温泉スタンドで2千万円の経費を要する。また、波野地域の審議会でも討議がなされ、「泉源は35℃のため、木を燃やしても経費を削減するか。」などのご意見も出されたところである。結局、維持経費が課題となっており、今後、何とか生かしたいと考えている。(市長)

【Q】波野地区は高原の畑作地帯であるが、農産物の生産価格が安定しない。農家の先行き不安に対して、市として何らかの対策案を教えてほしい。

【A】波野地区の農業は、大きく方向変換をする時期にきていると考えられる。公的な施設整備も含めモデル的な経営を考え、作物の栽培と加工の二本立てで進めるのが良いのではないかと考えている。(副市長)

【Q】行政改革の中で、「自主財源の確保」を行っているようだが、具体的に説明してほしい。

【A】現在阿蘇市では国からの地方交付税などの依存財源が全体の67%を占め、市税や手数料などの自主財源は33%しかない状況。

その中で、自主財源の確保として市のホームページや広報紙への広告料収入、遊休市有地の処分、収税対策などに取り組んでいるところである。

特に収税対策室においては、市税だけでなく公共料金についても総合的に対応できるよう徴収に取り組みを行っている。(総務部長)

【Q】今の国の農業政策を考えると、後継者のいない農村は後10年でつぶれるのではないかと感じている。その辺を市はどう考えているのか。

【A】農業従事者の高齢化、担い手の不足、農産物価格の低迷により、ここ数年厳しい状況にある。このため、阿蘇市としては集落営農を立ち上げ、農地の集約、機械の共有化等により、コスト低減や農業収益が上がるような形態

に変え、将来的に担い手となる後継者育成を図っていくとともに、畜産・施設園芸にも力を入れ農業所得の向上を図りたい。(経済部長)

【Q】最近、「区役」に行く若いや若いが少なく、高齢者が多い。若い人が喜んで地元に残れるような企業誘致をお願いしたい。それには、まず、道路建設が必要ではないか。

【A】若者が居づき働く場所があれば全て解決するのではないかと考えている。そのためには、交通網の整備が必要になってくる。国道57号も徐々に整備が進んでおり、幹線道路も計画的に進めている。また、高規格道路についても、県や国に働き掛けを行っており、早期の完成を目指したい。(市長)

【Q】幹線道路も必要であるが、今まで要望してきた小さな道路についてはどうなるのか。やはり足元の小さなところから仕上げる必要があるのか。

【A】緊急性や必要性があれば、皆さんの安心安全のために、今後も平行して年次ごとに整備していく。但し、幹線道路については、合併前からの重点項目の一つであり、合併後、優先して事業実施している状況である。(土木部長)

【Q】高齢者対策について、阿蘇市はどういった取り組みがなされているか。

【A】基本的には、介護保険事業の中で高齢者対策を行っている。しかしそれだけでは十分でないことから、阿蘇市内の温泉旅館を利用して温泉入浴や食事を行い、皆さんが話し明るく元気になっていただくための「健康はつらつ事業」など、今までの事業と併せて行っている。このようなことから、なるべく定期的に体を動かし、精神的に解放できるような機会を設けて、健康寿命の延命に向けた取り組みを更に強化していきたい。(市民部長)

【Q】後期高齢者医療保険料や介護保険料について、年金生活者等の所得に応じた施策をとっていただきたい。阿蘇市としてどういった取り組みをしているか。

【A】医療については、後期高齢者医療制度により県全体で保険料を決定しているのが阿蘇市独自で決めることが出来ないが、低所得者に対しては、所得に応じて、7割から8割5分まで減額するよう形で行っている。

ちなみに平成19年度の阿蘇市の後期高齢者医療制度の中での医療費は、県下47市町村の中で2番目に高い状況であり、市としても予防に対して取り組みを行っている。今後も皆さん方の協力をいただき、検診等の受診率の向上、健康で入院をしない、介護状態にならないような施策に取り組みたい。(市民部長)

【Q】説明では平成21年3月には中央病院



▲阿蘇中央病院

院の方向性が決定するということであるが、もう少し具体的にわかれば説明してほしい。

阿蘇地域の人が安心して病院へ行ける様な大きな病院を是非建設していただきたい。阿蘇市民の願いである。

【A】阿蘇地域で「地域医療計画」を作っており、その計画の中では阿蘇地域の中核病院は阿蘇中央病院と位置づけられている。

しかし現状として今の中央病院では医師などいろんな部分で不足しているため、中核病院としての機能が十分とはいえない。そういった中で先ず、医師の確保が重要であり、市長自ら熊大付属病院の院長を交渉相手とし一年数ヶ月交渉を重ね、脳外科と循環器医師の派遣を確約していただいた。

今後「建設委員会」の中で、病院の規模など今後の方向性を3月までに検討していく。(市民部長)

【Q】外灯については行政区内にはあるが、行政区と行政区の間にはない。声かけ事件などが起きており、不安である。電気料の行政区負担があっても行政としてそういう所に外灯を設置してはどうか。

【A】現在、防犯灯の設置は、行政区が行い電気料を全額市が負担としている。行政区間の外灯の設置については、波野のような広い地域のこともしっかり考えながら、今後協議を行っていきたい。(総務部長)

【Q】10月15日にシルバースポーツ大会が盛大に開催されたが、合併した以上、来年から阿蘇市全体で一堂に行ったらどうか。「あびか」ならば芝生広場もあるし駐車場も広い。

【A】農村公園「あびか」でやれば、阿蘇市一堂に会しての開催も十分可能であると思っている。現在は、それぞれの地域の意識を持って行われている状況であり、確かに一堂でやればと思っている。今後、老人会の中でも協議をしていただき、検討していきたいと思う。(市民部長)

【Q】中央病院の薬局に行くためには、登山道路を横断して薬局に行かなければならない。できれば病院の駐車場内にも作っていただけないか。

【A】現在の薬局については、国の施策により院外(敷地外)にある。道路を

横断する必要があり危険であるため、薬局側が警備員を雇って安全確保を行っている状況である。

当初は登山道路の記念碑の部分への建設を検討してきたが、国の方針がいったん公道に出て薬局に行くこととなつているため、努力はしたが実現できなかった経緯がある。

今後においては、中央病院の新築移転を検討しており、利用者の利便性、安全性を考慮したい。(総務部長)

【Q】阿蘇市の市議会議員の議員数は、同規模の市町村と比べたら開きがあると思う。人件費を削減している中、市長はどう考えているのか。

【A】今現在の議員数は26名。議員定数については、議会側で特別委員会の中で協議が進められている。(市長)

阿蘇市は現在、人口3万人であり、法定基準の中で法定数26名となっている。議会では定数削減検討委員会(特別委員会)で協議を行っている。今のところ削減の方向で検討しているというところしか言えない。(議員)

【Q】世界文化遺産について、私たちは国立公園内に住んでおり、土地の利用や建物の高さ・色などいろんな規制を受けている。

もし登録された場合、市民はどのような影響を受けるのか、また登録をされたことによって、どのようなメリッ

# 平成21年 阿蘇市成人式 ご案内



新成人の門出を祝う成人式を下記のとおり開催します。新成人の皆さんのご参加をお待ちしています。

なお、対象者の方々には、あらかじめ案内状を送付しています。不明な点などありましたら、下記までお問い合わせください。

日時 平成21年1月11日(日)  
午前10時00分開式  
(午前9時30分から受付)

場所 阿蘇体育館(内牧)

対象者

- ・阿蘇市在住で昭和63年4月2日から平成元年4月1日までに生まれた方。
- ・阿蘇市内の中学校を卒業された方。

問い合わせ先

教育委員会 社会教育係  
☎22-3229



トがあるのか、現在のわかる範囲で説明をいただきたい。



▲草千里

【A】「世界自然遺産」は、もつと大きな規制がかかってくるが、今回の「世界文化遺産」は、カルデラ内に人間と火山とが古代から共生してきているという位置づけであり、今の自然公園法

の範囲内で守っていくことになる。メリットとしては、阿蘇のブランドができることで非常に観光面にも効果的な影響を与えるものと考えられる。

そのほか希少動植物の保護対策、観光入込み客の増加、地域活性化、雇用増加などが見込まれる。

ただ観光客が多くなることによって、ゴミが多くなってくるようなことにならないよう、規制関係を構築する必要があり、今後阿蘇郡市7市町村での提案となるので、しっかり地域の方々と協力しながら再度チャレンジしていきたい。(教育部長)

【Q】合併当初の約束だった文化ホールの建設などの箱物を作るよりも、救急医療として中央病院を国道57号線沿いに建設した方が良いのではないか。

【A】合併するときの約束であった文化ホール建設など4つの項目については、やはり尊重しなくてはならない。その4つの約束を達成できるようにするためにも今は、体力(財政力)をつける時期、阿蘇市としての基盤づくりを行う時期である。しかしながら病院や老朽化した住宅の整備など、市民生活に直結する必要な事業については優先して実施しなければならない。また、耐震偽装事件や国内外の地震災害等により、「学校施設の耐震強度の強化」という想定外のことを進めなければならなくなつた。子どもたちの安全確保のため早く取り組む必要がある。昨年から学校規模適正化委員会も開いて、これからの将来の学校のあり方、規模を考え、きちっとした安全な校舎を建設するなど、こういったところに合併特

例債を使っていくのが先だと思ってる。市民生活に直結する市民の皆さん方が必要とすることを優先して考えていかなければいけない。(市長)

【Q】ブルーベリーの推進事業がどのくらい進んでいるのか。

【A】ブルーベリーの振興については、平成18年度から旧町村単位で試験園を設けて、ブルーベリーの大玉に挑戦している。3年目を迎えているが品種や土壌に問題があり、あまり大きくなっていない状況。今後はそのようなノウハウの部分で、東海大学との協定を結び、加工を含めたいろんな展開により、ブルーベリーの振興に努めて行きたい。特に山間の農地の部分で取り組んで行きたい。(経済部長)